

授業改善に立ち向かう その2

―小・中学校が連携して授業研究会を開く―

一徹国語人

横浜市では、市としての研究日が小学校は第一水曜日、中学校は第二水曜日であった。それが昨年度からどちらも第一水曜日となり、合同研究会が開けるようになった。

昨年暮れ(十二月十八日)、横浜市立南小学校という学校の授業研究会に参加したところ、水曜日でもないのに近隣の二つの中学校の国語科の教師たちが参加しているのに出会った。南小からのお誘いがあったので、小学校の国語教育を知るいいチャンスだと考えて参加したと言う。どちらの中学校も、南小を卒業した子どもたちが進学している学校である。

「子ども一人ひとりが『語彙力』を身に付け、『読みの力』を高める指導の在り方」をテーマに授業研究を進めていたが、私は、五年生の若い担任教師による、「大造じいさんになりきって作品を味わおう」という単元設定の授業を参観した。

語彙力をつけるために読書や音読、ことわざ・四字熟語の学習、辞書の活用といった

いろいろな学習に取り組んできているそうである。どの子も学びの方法をそれぞれにもった上でこの単元の学習に立ち向かっているのがよく分かる。今回は、大造じいさんの日記をけるという学習を通して、読み進める際のサイドラインの引き方とノートの取り方を深めようとしていた。

授業が終了し子どもたちが下校した後、の教室に、高学年の担任たちと中学校の二人の先生が集まって、その日の授業の目標や展開の仕方について話し合った。

大造じいさんの気持ちを考えるのに残雪の立場からの意見も日記に書いてみたい、と言う児童が出たことについての議論や、「うなぎつりばり作戦とかタニシばらまき作戦」といった『○○作戦』と命名したのは、子ども達の心を教材に引きつけるのには効果的だが、読みがゲーム的になって深まらなくなることもあるから気をつけたい。」という意見、「銃を『撃つ』か『撃たない』かを個々に読み取りした後、そのことでディベート学習し

てみるのも意味がある。」といった意見が出るなど、先生方の活発な発言が続いた。

中学校の先生からは、「大造じいさんかどうかどうして銃を下ろしたか」というテーマで、時間をかけて読み取り学習をするのはとてもおもしろい。時間のない中学校ではできない、小学校ならではの取り組みだと思う。」
「実に丁寧な読みの学習でびっくりした。中学校の授業改善にも大いに参考になった。また、もつとノート記録の時間を増やしてスピーディーに記録できるように指導してくれると中学校としては助かる。」といった意見が出ていた。

これまで小学校の教師たちだけで行っていた授業分析だが、中学校の国語科教師を交えて話し合うことによってこんなにも広がりや深まりが得られるのかと、互いにびっくりしていたのが面白かった。

今、横浜市のあちこちで小・中学校合同の授業研究会が静かに広がっているのを、うれしく参観させてもらった。